

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大戸小学校】

| | |
|----------|--|
| ⑥ | 次年度への課題と学力向上策 |
| 知識・技能 | 基礎的・基本的な知識・技能の向上は見られたが、学習状況調査の結果から、正しく問題を読み取ったり、適切に回答したりする点について課題が見られるので、引き続き個別最適な学びの充実や児童の理解を深めるための指導法の工夫改善が必要である。質問調査の結果から、学んだことを他の学習や生活に生かそうと意識している児童の割合が多いことが分かったので、授業での学びを実生活に必要な知識として定着できるようにしていく。 |
| 思考・判断・表現 | 引き続き国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」の向上に取り組んでいく。昨年度より向上は見られたが、全国学力・学習状況調査とさいたま市学習状況調査の結果から共通の課題となっているので、次年度も引き続き児童主体の学習機会を確保し、併せて振り返りを継続して行うことで、自分の考えをもち、学びを自己調整できる児童の育成に努めていく。 |

| | | |
|----------|--|---|
| ① | 今年度の課題と学力向上策 | |
| | 学習上・指導上の課題 | 学力向上策【実施時期・頻度】 |
| 知識・技能 | <学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」 算数 基礎的・基本的な知識・技能の向上 <指導上の課題> 個人差が大きく、個に応じた指導の充実や児童の理解を深めるための指導法の工夫改善が必要である。 | ⇒ 学校や家庭での学習の中でタブレットも含めた問題演習やドリル学習等の時間を確保し、基礎的・基本的な知識・技能の向上に努めていく。(週に1回以上) 1人1台端末を活用した児童主体の授業を行い、成果と課題を共有する。授業で得た知識を実生活に活用できるような活動を組み込んでいくことで、より深く定着できるようにする。(単元に1回以上) |
| 思考・判断・表現 | <学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」 無回答率の減少 <指導上の課題> 自分の考えを整理したり、伝えたりすることに課題が見られる。児童主体の学習活動の機会を十分に確保する必要がある。 | ⇒ ICTを効果的に活用し、自分の考えをわかりやすくまとめたり、共有したり、発表したりする活動を取り入れていく。(単元に1回程度) 児童が自らの学びを調整し、主体的に学ぶとする力を育むために、児童にとって必要感のある学習課題や学びの場を設定する。(単元に1回程度) |

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月～5月)

| | | |
|----------|-------|--|
| ⑤ | 評価(※) | 学力向上策の実施状況 |
| 知識・技能 | B | 学校や家庭でのドリル学習を継続することで基礎的・基本的な知識・技能が向上し、昨年度と比較して算数「知識・技能」問題全体の正答率は約1%、「数と計算」については約2%の向上が見られた。特にデジタル教材の活用は繰り返し多くの問題に取り組めるという点で効果的であることが分かった。1人1台端末を活用することで学習活動や学習形態を児童自身が工夫できるようになり、個別最適な学びにつながっている。また、学習意欲が高まることで一人ひとりの学習理解にも深まりが見られるようになった。 |
| 思考・判断・表現 | A | 国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関して向上が見られた。これは、一年を通して学びのシンキングサイクルを意識し、ICTを活用した児童主体の学習機会を設定することで、自分の考えをまとめたり、発表したりする力を育むことができたからだと考えられる。全校で学年の実態に応じた学習の振り返りを実施することで、児童が学びの連続性を意識し、自己調整しながら学ぶ姿勢が育ってきている。無回答率については昨年度と同様の低い水準を維持している。 |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

| | |
|----------|--|
| ② | 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察) |
| 知識・技能 | どの教科も県の平均を上回る結果となったが、理科では、「エネルギー」を柱とする領域が他の領域に比べて正答率が低く、身の回りの金属の性質や、回路の適切なつなぎ方について正しい知識が身につけているかどうかを問う問題に課題が見られ、教科を問わずさらなる基礎的・基本的な知識・技能の向上に努める必要がある。児童質問調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたが」「分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」における肯定的な回答の割合は90%以上であった。子ども主体の学びとなるような授業を今後も継続していく。 |
| 思考・判断・表現 | どの教科も県の平均を上回る結果となったが、国語では、話し合いの中の発言を説明したものである適切なものを選択する問題の正答率が低く、目的や意図に応じて伝える内容を考えることに課題が見られた。算数では「数と計算」領域の分数のたし算について、共通する単位分数(公倍数)を見だし、分母の違う2つの分数が、共通する単位分数の幾つ分かを記述する問題と、「図形」領域の五角形の面積を求めるために二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を式や言葉で書く問題の正答率が低かった。問題を正しく理解し、自分の言葉で書くことに課題が見られるので、自分の考えをまとめたり伝えたりする活動を引き続き授業で取り入れていく。 |

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

| | |
|----------|--|
| ④ | さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察) |
| 知識・技能 | すべての教科において概ね市の平均同等またはそれ以上の結果となった。特に国語、算数、理科において、全学年が市の平均を上回る結果となった。一方で、算数「図形」領域の問題に課題が見られた。特に5年生では、合同な図形や立体を構成する要素が十分に理解されていないことによる間違いがあることが分かったので、図形の特徴を正しく理解するとともに、題意を捉えて解答できるように学習活動を行っていく必要がある。質問調査から、学習全般でタブレット活用の頻度が多く、週3回以上活用している児童の平均正答率が高いことが分かったので、視覚的理解を助けるツールとしての活用場面を作り、積極的に活用していくことが期待される。 |
| 思考・判断・表現 | すべての教科において概ね市の平均同等またはそれ以上の結果となった。特に国語と理科については全学年が市の平均を上回る結果となった。国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率は昨年度との経年比較で約2%の向上が見られた。しかし、文章の構成を考えたり、話の中心を意識して伝えたりする問題の正答率が他の問題に比べて低く、課題が見られる。質問調査の結果から、学んだことを生かしながら自分の考えをまとめようとしている児童の割合が多いことが分かったので、その意欲を確実に書く力・話す力の向上へとつなげていきたい。 |

| | | | |
|----------|-------|---|----------------|
| ③ | 中間期報告 | | 中間期見直し |
| | 評価(※) | 学力向上策の実施状況 | 学力向上策【実施時期・頻度】 |
| 知識・技能 | B | タブレットを活用した学習活動が習慣化してきている。ICTの活用によって個別に学んだり共働的に学んだりすることができ、発展的な学習にもつなげることができる。結果がすぐに共有できるため、自己の学びを振り返る機会にもなっている。 | 変更なし |
| 思考・判断・表現 | A | 自分の考えを記述する活動で評価の観点を示すことで、具体的な課題や目的意識をもって書けるようになってきた。全国学力・学習状況調査における無回答率は県の平均を下回っていた。 | 変更なし |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)